

令和8年度予算のEBPM「保育対策総合支援事業費補助金」

課題データ

令和7年の保育の待機児童数は2,254人で、ピークの平成29年（26,081人）から8年連続で減少しているが、保育士の有効求人倍率は依然として高い水準にある。また、配置基準の改善等により、今後も保育士の確保は必要となる。
 加えて、保育の現場や保育士等の仕事の魅力発信を進めることで、保育に関する誤った情報やネガティブなイメージを払拭し、保育人材の確保を図る必要がある。

事業

保育人材の確保・職業の魅力発信に関する事業

令和7年度補正予算：169億円の内数
 令和8年度当初予算：463億円の内数

地域の実情に応じた多様な保育需要に対応するため、①保育士の新規資格取得支援②就業継続支援③離職者の再就職支援④保育の現場・魅力発信の4つの観点から、保育を支える保育人材の確保に必要な経費の一部を補助する。

※アウトプット、アウトカムの（）内は直近の実績値

| | | | | | |
|--------|---------|---|--|---|---|
| EBPM指標 | アウトプット | 保育士資格取得を目指す者を増やす事業の実施自治体数 | 保育士が働きやすい職場環境を確保する事業の実施自治体数 | 潜在保育士が保育現場で活躍できる環境を整える事業の実施自治体数 | 保育士・保育の現場に対するイメージを改善し、若者や保護者をはじめとする国民の理解を深める事業の実施自治体数 |
| | 短期アウトカム | 保育士等保育人材の増加傾向の維持 (2022年度68.1万人、2023年度69.3万人) | 保育人材の勤続年数の上昇傾向の維持 (2023年度7.8年、2024年度8.0年) | 保育士・保育所支援センターへの登録者数の増加 (2023年度19,952人、2024年度18,802人) | 保育士を魅力的だと感じるこども・若者等の割合の増加 (2025年度45.2%) |
| | 中期アウトカム | - | | | |
| | 長期アウトカム | 保育人材の不足感を感じる施設の割合の減少 | | | |

| | | | | |
|----|--|------------|----------------------|------------------------------|
| 目標 | こども・若者の権利保障とその視点の尊重、意見聴取と対話 | 良好な成育環境の提供 | すべてのこども・若者の健やかな成長の保障 | 結婚・子育てに関する希望の形成とその実現を阻む隘路の打破 |
| | こども・若者の幸福な生活 / 少子化トレンドを大きく変える / 未来を担う人材の育み | | | |